

## 平成 28 年度前期学校生活アンケート

### 考察

#### ○全体的な傾向

- ・児童の評価は全体的には微増ですが、保護者の評価は全体的には減少傾向にあります。
- ・保護者のD評価は昨年度後期には児童の「読書」「運動」以外にはなかったものが、今回「雰囲気・教育活動」「相談」「個別のニーズ」「安全対策」「事故対応」にも見られました。職員の指導について、不審者の侵入とそれに伴うメール配信の即時対応等についてのご意見をいただいています。
- ・児童・保護者ともに読書についての評価が上昇傾向にあります。

#### ○成果と課題

- ・児童は全体的に素直で、落ち着いて学習に取り組んでいて、学校が楽しいと感じていますが、学習に苦手意識のある児童もいます。
- ・宿題等、家庭でも学習するという児童の割合が増加していますが、「まったくしない」という児童の割合も増加しています。
- ・「読書貯金」の活動を今年度より取り入れたことにより、児童・保護者ともに評価が上昇したものと考えられます。取り組み始めて間がないこともあり、大きな変化には至っていませんが、有効性が認められるので良い意味での動機付けを強めて、一層の充実を図っていきます。
- ・学習指導については、授業改善に継続的に取り組んでいるところですが、児童の「授業がよくわかる」、保護者の「わかるように指導している」の評価が低下の傾向にあります。学習内容も増加したこともあり、より一層の工夫が必要と考えます。また、個に応じた指導をし、それぞれの困り感に対応する必要があると考えます。
- ・「安全対策」「事故対応」については、児童の安全確保を最重要に取り組んでいるところですが、保護者への迅速な連絡、事後報告が十分ではありませんでした。
- ・学校行事の持ち方、PTA活動、大桜の管理、課外活動等について個別にご意見をいただいています。個々の課題については、即答できませんが、職員会議、PTA常任委員会等で検討していきます。

#### ○今後の取り組み

- ・わかりやすい授業、ユニバーサルデザインの授業を目指しながら、個々の困り感を取り除き、学力向上に努めます。
- ・学習ハンドブックを作成し活用することで、授業と家庭学習をつなぎ、学習に対する意識を高めて学習習慣を身につけさせるようにします。
- ・外部の研究組織・団体を積極的に活用し、客観性のある確かな学力を身につけさせます。(希望者による漢字検定の試験的導入)
- ・緊急時は職員全員が児童の安全確保を最優先としながら、保護者への速やかな情報提供ができるように再度確認をしました。今後も生活安全・交通安全・災害安全の見直しを図り、適切な緊急時の対応ができるようにします。
- ・ご意見のあったことについて適宜各種会議で検討していきます。